

いわて復興だより



平成 23 年 3 月 11 日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます。この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

がんばろう!岩手 つながろう!岩手 第 164 号 令和 2 年 8 月号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

令和 2 年度第 1 回いわて復興未来塾 開催

山田町

YAMADA

大槌町

OTSUCHI

令和 2 年 8 月 23 日 (日)、「東日本大震災津波の教訓と復興の姿～10 年目の沿岸被災地から～」をテーマに、令和 2 年度第 1 回いわて復興未来塾～沿岸報告会～が山田町及び大槌町で開催され、約 70 名が参加しました。

最初に、三陸鉄道陸中山田駅周辺で、山田町体験観光コーディネーター服部真理さんと震災語り部 2 名による復興まちづくり状況の視察が行われました。語り部から発災当時の津波や火災にのみこまれたまちの様子、復興に向け新しいまちづくりに取り組む地元住民の熱意などについて説明があり、参加者は熱心に耳を傾けていました。



復興まちづくり状況の視察の様子

その後、大槌町文化交流センターおしゃっちを会場に、3つのテーマの事例報告会が行われました。



服部さん (左) と神谷さん (右)

報告会は、服部さんが司会進行を務め、(一社)おらが大槌代表神谷未生

さんがコメンテーターとなり進められました。

「大槌高校復興研究会による防災絵本の発表」では、研究会の佐々木結奈さんと土沢葵さんが「私たちが小学 2 年生の時に東日本大震災で経験したことを、震災後に生まれた子供たちに伝えたいと思って作成しました。」と説明しました。



大槌高校復興研究会による発表の様子

「オランダ島ハウスにおける山田町放課後児童クラブ・子育てサロンの紹介」では、山田町健康子ども課子育て世代包括支援センター助産師の佐々木美智穂さんが、山田町がオランダから受けた支援と、町内で行っている子育て支援について説明しました。



佐々木さんによる発表の様子

「大槌川水門・小鉾川水門に関する発表」では、静岡県から沿岸広域振興局土木部復興まちづくり課に応援派遣されている中谷恭右さんが、静岡県における被災地支援、ご自分が

担当する水門の建設意義や工事概要、津波防災に向けた取組について説明しました。

知事からは、「復興道路や三陸鉄道など、それらを活かして復興を進めていきたい。国内外に開かれた復興をぜひ成功させ、1人ひとりの復興を果たし、皆さんと一緒に新しい時代を切り開いていきます。」とコメントがありました。



総括コメントを述べる達増知事

報告会終了後、大槌川水門及び小鉾川水門の現場視察が行われました。



水門現場の視察の様子

東日本大震災津波から 10 年目の復興の姿について理解を深める機会となりました。

事例報告会の様子は、動画配信サイトに掲載されておりますので、ぜひご覧ください。



#iiiwate

“いい岩手” 教えて広めてキャンペーン

あなたの「大好きな岩手=iiiwate" いい岩手 "」をハッシュタグ #iiiwate を付けて、Twitter、Instagram で投稿してください。投稿してくれた方の中から抽選で、岩手がもっと好きになる景品をプレゼントします。

実施期間：令和 2 年 7 月 7 日 (火) ～令和 3 年 1 月 31 日 (日)



「夏いわてさんりく海日和 キャンペーン」PR イベント 開催

宮古市

MIYAKO

令和2年7月29日（水）、新型コロナウイルス感染症の影響で落ち込んだ消費の拡大や沿岸地域への観光誘客等につなげるため、「夏いわてさんりく海日和キャンペーン」のPRイベントが、宮古市で開催されました。

PRイベントでは、久慈、宮古、釜石、大船渡の沿岸4地域の若手観光関係者が、地域の豊かな「自然」、「食」、「観光スポット」などの「夏の三陸観光の魅力」を発信しました。また、達増知事、山本宮古市長、中村三陸鉄道（株）社長ら観光関係者約60人全員で、「三陸でお待ちしております」とPRしました。

毎月抽選で豪華賞品が当たるシールラリーキャンペーンは、令和2年7月1日（水）から令和2年9月30日（水）までの開催となっておりますので、ぜひご応募ください。

シールラリー対象施設は
こちら



PR イベントの様子

■問い合わせ：

「夏いわてさんりく海日和 シールラリー」事務局

(IBC 岩手放送)

☎ 019-623-3131

震災から9年4か月 サン・アンドレス公園復活 (大船渡港野々田地区)

大船渡市

OFUNATO

令和2年8月1日（土）、大船渡市の大船渡港野々田地区緑地公園（愛称：サン・アンドレス公園）がオープンしました。

公園は、東日本大震災津波により被災し、その後は防潮堤建設工事のための資材置き場として利用されてきましたが、岩手県が地域住民の意向を取り入れながら、令和元年2月から復旧工事を進め、震災前と同じ1.6haの広さで、遊具や水飲み場などの位置もほぼ同じ場所に設置されました。

1611年にスペイン使節セバスチャン・ビスカイノが大船渡に入港した日が聖アンドレスの祭日だったことにちなんで「サン・アンドレス公園」と命名されたこの公園は、地域の声を活かし、海側に築山（つきやま）を作り、防潮堤より内側からでも海が見えるよう整備しました。今後、市民の憩いの場として利用されます。



サン・アンドレス公園

■問い合わせ：

岩手県沿岸広域振興局大船渡土木センター河川港湾課

☎ 0192-27-9934

つ な み

世界へ、未来へ、「いわて TSUNAMI メモリアル」

東日本大震災津波の事実と教訓を伝える施設「東日本大震災津波伝承館」
(いわて TSUNAMI (つなみ) メモリアル) を紹介します。
なお、現在新型コロナウイルス感染症対策を行った上で開館しております。

令和2年8月3日（月）、東日本大震災津波伝承館と国立大学法人岩手大学は、震災津波の事実と教訓を世界中の人々と共有し、自然災害に強い社会の実現に寄与することを目的として、連携協定を締結しました。

岩手県庁で開催された協定締結式には、伝承館の館長を務める達増知事、小川岩手大学長等が出席し、(1) 復興・防災教育及び学術研究に関すること、(2) 国内外の研究機関等との連携・交流に関すること、(3) 伝承館の展示内容に関することなどについて、連携・協力していくことを確認しました。

達増知事は、「今後、学術的な助言・指導をいただきながら、国内外を代表する津波学習拠点を目指していきたい」と述べました。

この連携協定を契機として、伝承館では、防災・減災に関する専門的知見を活かした取組を進めるとともに、国内外から研究者や学生が訪れる研究や連携・交流フィールドとしての活用を進めていきます。

■問い合わせ：東日本大震災津波伝承館

☎ 0192-47-4455



協定締結式の様子



小川岩手大学長（左）と達増知事（右）



東日本大震災津波の被害を受けた沿岸地域の郷土芸能の復興の姿と支援への感謝をお伝えしていきます。今回は、大船渡市の郷土芸能「赤澤鎧剣舞」について、平山 徹さんに伺いました。



赤澤芸能保存会 会長
大船渡市郷土芸能協会 会長

平山 徹さん

江戸時代末期から伝わる赤澤鎧剣舞は、源氏と平家の戦い“源平合戦”に敗れた平家の武者が夜な夜な亡霊となって現れ、源氏の一族を苦しめたことから、その亡霊を成仏させ退散させるために作られた踊りと言われています。

明治時代の中頃からは、鎧に見立てた衣装を身につけて踊るようになり、“鎧剣舞”と名付けられました。踊りには、霊を成仏させる意味があることから、今では、毎年8月のお盆に家々を回り、各家庭の祖先の供養のために踊りを披露しています。

大船渡市には、およそ30の郷土芸能団体があり、赤澤鎧剣舞が伝わる赤澤地区は高台にあったため、東日本大震災津波発災時は、衣装などを保管している収蔵庫の被害は免れましたが、保存会の会員が犠牲になりました。震災にあった人たちも鎮魂の思いを込め、家々を回りました。

一方、郷土芸能の継承活動を行っている沿岸地区のい

くつかの団体の収蔵庫や伝承館は壊滅的な被害を受け、継続することが困難な状況になりました。

一旦途絶えてしまうと郷土芸能の活動を再開することは難しいのではないかと苦慮していたところ、震災後は、被害を受けた団体も民間からの支援を受け、活動を再開することができました。

今年は新型コロナウイルス感染症の影響で、これまでと同じような活動はできない状況ですが、先日、大船渡市民文化会館（リアスホール）で赤澤鎧剣舞の演舞をビデオ収録し、その様子が東京で上映されました。

皆様からの支援に感謝し、今後も地域の子どもや先輩の人たちと赤澤鎧剣舞の継承に努めていきます。



「赤澤鎧剣舞」の演舞の様子（写真提供：赤澤芸能保存会）



さんりくイベント情報



EVENT

サッパ船 パワフル運航

田野畑村
TANOHATA

小型漁船で、三陸の海を満喫できるサッパ船定期運航のほか、受付会場では、濃縮海水から作る塩づくり体験や浜辺の貝殻や小石を使った工作体験も楽しめます。

- 期間：9/19（土）～9/22（火・祝）
- 出航場所：羅賀漁港
（受付：ホテル羅賀荘横 しおさい交流センター）
- 出航時間：9：00、10：30、12：00、13：30、15：00
- 料金：中学生以上¥3,800、小学生以下無料
- 予約・問い合わせ：NPO法人 体験村・たのはたネットワーク
☎ 0194-37-1211（9：00～17：00）

龍泉洞・清水川溪流釣りまつり

岩泉町
IWAIZUMI

龍泉洞の水が流れ込む溪流で気軽に釣りを楽しむことができます。

また、釣り道具のレンタルや釣り方・エサの付け方の指導もあるので、初心者の方も安心して体験できます。

- 日時：9/30（水）まで / 10：00～16：00
- 場所：龍泉洞・清水川溪流
- 問い合わせ：小本川漁業協同組合
☎ 0194-32-3215（10：00～16：00）

大窪山森林公園散策会

大船渡市
OFUNATO

大船渡市の北端に位置する大窪山森林公園の豊かな森林を体感しながら、広葉樹林や吉浜川源流を約3～4kmを散策します。

- 日時：9/20（日） 9：30～12：00
- 場所：岩手県大窪山森林公園
- 料金：無料（事前申し込みが必要）
- 問い合わせ：岩手県大窪山森林公園まりの学び舎
☎ 0192-44-3655（9：00～16：00）
（月曜日休館、月曜日が祝日の場合翌日休館）

「気仙川」アユ釣り解禁

住田町 陸前高田市
SUMITA RIKUZENTAKATA

岩手の清流を代表する「気仙川」は、住田町上有住の清水山に源を発し、陸前高田市の広田湾に注ぐ延長47kmの河川です。アユ、ヤマメ、イワナなど魚類の宝庫として有名で、川は多くの釣り人で賑わっています。

- 期間：11/30（月）まで
*9/23～10/20 禁漁
- 場所：気仙川
- 問い合わせ：気仙川漁業協同組合
☎ 0192-46-3841（平日8：30～17：00）



JR、三陸鉄道の久慈駅南側に、駅前観光交流センターと図書館が一体となった新たな交流拠点久慈市情報交流センター「YOMUNOSU (よむのす)」がオープンしました。



「YOMUNOSU (よむのす)」の外観



ドラマ「あまちゃん」の展示物

「YOMUNOSU (よむのす)」は、1階に駅前観光交流センターや喫茶スペース、多目的室などが整備され、2階、3階は、市立図書館として約10万冊の書物が収蔵されています。市民の公募により名付けられた施設の愛称は、地域の方言で「読むのす＝読むのです」と、子どもたちが図書館で学び巣立ってほしいという願いから「読むの巣」と

いう2つの意味が込められています。

また、NHK連続テレビ小説「あまちゃん」のロケセットや小道具などを展示する「あまちゃんハウス」が1階に設けられ、ドラマで使用した衣裳やジオラマなどの展示により「あまちゃん」の世界が再現されています。

***ご来館の際は、新型コロナウイルス感染症対策のため、マスク着用や手指の消毒等にご協力をお願いします。**

【久慈市情報交流センター】

■所在地：久慈市中央3-58

■問い合わせ：駅前観光交流センター

☎0194-52-7777

※館内各施設の開館時間・休館日は、問い合わせ先にご確認ください。



連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いをもち、活躍する方々を紹介していきます。

第109回は、米沢祐一（よねざわゆういち）さん、米沢多恵（よねざわたえ）さん親子を紹介します。

PROFILE

陸前高田市出身。平成30年、米沢祐一さんは、陸前高田市が開催した講座において、防災に関する知識や技術を習得し「陸前高田市防災マスター」に認定される。同じく、翌年、当時小学校3年生の多恵さんが「陸前高田市キッズ防災マスター」に認定され、親子で震災の伝承と防災への啓発活動を行っている。

実際の場で津波の恐ろしさを伝える

震災による津波は、米沢さんが所有する3階建ての社屋の屋上を超え、当時社屋にいた米沢さんを襲いました。「津波に追いかけるように屋上から突き出た煙突に登りました。津波はかるうじて足下30センチのところまで止まり、

いわてさんりくびと

「陸前高田市防災マスター」
米沢祐一さん（左）
「陸前高田市キッズ防災マスター」
米沢多恵さん（右）



地震が起きたら、津波が来ると思って、すぐ高台へ!!

九死に一生を得ました。そこで一晩を過ごし、翌日、ヘリコプターで救助されました。」と米沢さんは当時を振り返ります。

被災した社屋を当時のまま保存している米沢さんは、「実際にビルの上に登ってもらうことであの日の津波の高さを実感してもらい、震災の恐ろしさを語り継ぎたいと思います。」と、自身の体験をもとに伝承活動を行っています。

防災に関心を持って

父・祐一さんが防災マスターに認定されたことで、防災に強く関心を持った多恵さんも自ら志願し、防災について講習を受け、キッズ防災マスターに認定されました。

「講座では、気象現象や災害の時に役立つ救助や公助、共助のほかAEDの使い方も習いました。習ったことを使って自分や多くの人の命が助けられればと思います。地震が来たら高い所に逃げるように伝えていきたいと思います。」と多恵さんは、元気に話します。

岩手県の被害状況

令和2年7月31日現在

皆様のご支援、ありがとうございます

令和2年7月31日現在

- ▶人的被害 死者（直接死）：4,674人 行方不明者：1,112人
死者（関連死）：469人
- ▶建物被害（住家のみ、全半壊） 26,079棟

被害状況等の詳細
義援金・寄付金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

検索

- ▶義援金受付状況 約187億4301万円（97,556件）
 - ▶寄付金受付状況 約200億9929万円（10,154件）
 - ▶いわての学び希望基金（※）受付状況 約102億2115万円（24,690件）
- ※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。



いわて震災津波アーカイブ～希望～
約24万点の資料を検索・閲覧できます。



[いわて震災津波アーカイブ](#)

検索

いわて復興だより 第164号 令和2年8月27日発行
企画・発行：岩手県復興局復興推進課 ☎019-629-6945
編集・印刷：シナプス